

氏名 副島裕二

法科大学院等の在籍年次 3年次

*このレポートは主としてこれからインターンシップに行くことを考えている人達に情報提供を行うことを目的とするものです。以下の項目について適宜行数を増やしながらかき込んでいって下さい。文字数及び頁数に制限はありません。

*このレポートは、記名で法学研究科のウェブサイトに掲載されます。もし氏名掲載を希望しない場合には、その旨をお知らせ下さい。

*重要情報についてはできる限り具体的に記載して下さい。また、後輩の方達に向けた率直なアドバイスをお願いいたします。

1 受入事務所と滞在期間

- ・ One Asia Lawyers シンガポール事務所
- ・ 2024年8月11日（日）から2024年8月30日（金）まで

2 事務所の業務・構成・勤務条件及びインターンシップの内容等

事務所の業務については、上司は日本人ですが案件は英語を扱うことも多く、国際的な実務経験を積むことができます。事務所外のセミナーにも同行し、現地のビジネス文化に触れる機会があるため、法務だけでなく幅広い経験を積むことができます。

3 宿舎及びその他の生活環境について

- ・ 私は、1泊5000円ほどのカプセルホテルに滞在しました。近くにモスクがあり、毎朝5時ごろにコーランのお祈りの放送で目が覚めることがありました。
- ・ 事務所までは地下鉄で3駅で、片道およそ1ドル少々でした。

4 出発に向けた準備等について

(1) 入国に必須のもの

渡航にわたり必須のものとして航空券とホテルの予約、パスポート、SG Arrival Card（入

国ビザ) があります。

私は、航空券とホテルは旅行代理店（エアトリ）で予約しました。SG Arrival Card（60ドルほど）は、個人情報、旅行目的、滞在先などを入力するもので、入国48時間前からオンラインで申請可能です。入国ゲートを通るのに必須のため、航空券、ホテル、パスポートを揃えてから渡航直前に申請すると思います。

(2) 渡航後必須のもの

渡航後必須のものとして、SIMカードと交通機関のICカードがあります。

私は、iPhoneがSIMロック解除済み（海外SIMを入れられる状態）のため、シンガポールのSIMカードStarHubを使用しました。空港の観光案内所で、28日100GBで48ドルのものを購入し、案内所の方がピンで差し替えをしてくれました。シンガポールでの携帯電話番号も付属して手にいれました（特に必要ありませんでしたが）。

交通機関のICカードも、空港の観光案内所で購入しました。カード代+初回チャージ料で12ドルでした。

(3) 事務所で必要だったもの

上下スーツ、革靴、通勤用かばんです。

ワイシャツは、4日に1回ほどホステルにある洗濯機+乾燥機で洗濯しました（10ドル）。

(4) あると便利なもの

コンセント変換器、日焼け止め、体温調整できる上着、水筒、サンダル、爪切り、髭剃りです。

コンセント変換器は、シンガポールではイギリスと同じタイプのコンセントのため、電器屋さん等で購入すると思います。体温調整できる上着については、シンガポールはその建物もそうですが、クーラーがガンガンに効いています。事務所でも屋内外の気温差が激しいので、何か上着があるといいです。私は、屋内ではスーツのジャケットを着ていました。水筒は、お水をコンビニ等で買うと高いので事務所やホステルにあるウォーターサーバーを利用すると思います。

サンダルは、ホステルでは風呂トイレが共同で、床が濡れていることが多いため、防水性のあるものがある方がいいです。支給されるガーゼ製のスリッパは水に弱く役に立たないです。ホステルでは髭剃り、爪切りがアメニティとして提供されないので、3週間の滞在には持参が必要でした。

5 インターンシップに要した費用

(1) 合計 26万9300円 (航空券補助を控除すると19万9300円)

(2) 小計

(1シンガポールドル110円で換算します。)

- ・航空券 9万5000円 (7万円大学から補助)
- ・ホテル 10万5000円 (20泊)
- ・SG Arrival Card 60ドル
- ・SIMカード 48ドル
- ・交通費12ドル+60ドル (通勤3ドル×15日、その他観光費)
- ・食費 300ドルほど (地元のフードコートにて1日7.5ドルを2食)
- ・生活雑費 50ドルほど
- ・観光費 100ドルほど

6 これからインターンに行く人達へのアドバイス等

海外エクスターンは、「上司が日本人、案件は英語、日常生活も英語」という環境です。英語の聞く・話す力に不安があっても、英語の読みができれば仕事はこなせます。書く力は日本人上司に提出することが多いので心配しなくて大丈夫です。日常生活を通じて英語力は徐々に向上するので、ぜひ挑戦してみてください。

7 インターンシップの有用性等に関する評価及び感想

エクスターンシップを通じ、日本法の枠を超えた法的問題に取り組む機会を得たことで、海外で働くキャリアが現実的に考えられるようになりました。特に、海外で働く日本人の先生方とのお話を通じて、次のステップが明確になり、将来のビジョンが具体的になったと感じています。海外でのキャリアを考える人には、エクスターンシップに行き、現地の実務に触れることをお勧めします。